

## プレ・インターンシップ体験報告

活動先: 高齢者に関する施設.....体験: 介護施設体験.....所在地: 田川市

日程: 23年4月(1日)

体験者: 社会福祉学科2年 1名..

・食事中の方の横に座って、見学しました。この施設の利用者さんは認知症の方が多く、認知症の方と接するのが初めてだったので、どう接していいのか、戸惑いました。「利用者さんから何度も同じことを聞かれるので、優しく何度も答えてあげてね。」という施設の方のアドバイスがあり、少し接することが出来ました。また、体温、血圧を測る時に係の方の横で少し手伝うことが出来ました。

## プレ・インターンシップ体験報告

活動先: 高齢者に関する施設.....体験: 介護施設体験.....所在地: 田川市

日程: 23年4月(1日)

体験者: 社会福祉学科2年 1名..

・施設の各部門を見せていただき、利用者さんと一緒に過ごしました。すべてが初めてだったので、利用者さんとのコミュニケーションがうまくとれず、お話を続けるのが難しかったです。高齢者の方と一緒にいる時は注意が必要だと思いました。要望を口に出さず、気づいてもらうのを待つ方が多いので、それに気付けるようにならなければ、と思いました。

## プレ・インターンシップ体験報告

活動先: 行政.....体験: 美術館イベントスタッフ補助.....所在地: 田川市

日程: 23年4月～5月(1日)...

体験者: 人間形成学科2年1名..社会福祉学科 2年2名..公共社会学科 1年 2名..

・美術館のイベントの補助を体験しました。子どもと話すことが苦手でしたが、褒めてあげると喜んでくれて、自分のことを話してくれることに気づきました。また、子どもと目線を合わせることで、自分から行動することが大切であることを学びました。

(学生Aさん)

・人の輪の中、特に子どもに対して、入っていけないと思っていましたが、積極的に参加しました。その中で、美術館のスタッフの方々の仕事が、予想以上に重労働だということを体験でき、楽しいイベントの裏で頑張っていることを学びました。

(学生Bさん)

絵本の世界にあわせたスタイルでお手伝い



## プレ・インターンシップ体験報告

活動先:地域振興(福岡県母子寡婦福祉連合会) 体験:母と子のキャンプ運営補助 所在地:朝倉郡

日程:23年7月2~3日(1泊2日)

体験者:人間形成学科2年3名 公共社会学科1年1名 看護学科2年1名

- ・ひとり親家庭の子どもたちと料理や自然体験や創作活動を一緒に体験しました。列に並べる事、先のことを考えて行動させること、話を聞いてもらうための話し方など、子どもとの接しかたが難しいと感じました。また、スタッフさんの、「こういうときはこう動けばいい」というやり方、子どもは想像以上にパワフルであることを学びました。  
(学生Aさん)



- ・朝、起きるのをぐずっていた子を起こすのが大変でした。朝食で一緒に食事をしたお母さんが、「久しぶりに熟睡した」とおっしゃって、母子家庭のお母さんがゆっくり眠れる時間をつくれるようにしたいと思いました。  
(学生Bさん)



福岡県母子寡婦福祉連合会 HP より

## プレ・インターンシップ体験報告

活動先:地域振興(伊田商店街振興組合) 体験:こども夜市運営補助 所在地:田川市

日程:23年8月30日

体験者:人間形成学科2年4名

- ・子どもと話す時、話しやすい言葉づかいと丁寧なことづかいの使い分けが難しいと思いました。  
(学生Aさん)
- ・子どもがその場でおもちゃの袋を取って、光らせて遊ぶ様子を見て、私も嬉しくなりました。  
(学生Bさん)
- ・イベントなどで人を集めて、主催者側としてお客さんを楽しませて、満足してもらえる喜びとか楽しさ、おもしろさがわかりました。  
(学生Cさん)
- ・お祭りのお手伝いは大変でしたが、スタッフとして参加して「地域の活性化するにはどうすればいいのか、何が問題なのか」などを考える機会が出来て、勉強になりました。  
(学生Dさん)



事前打ち合わせの様子



祭りを盛り上げるため、自分たちで着付けた浴衣姿で参加



## プレ・インターンシップ体験報告

活動先:千手小学校 体験:古処山合宿運営補助 所在地:嘉麻市

日程:23年8月16日~19日(3泊4日)

体験者:社会福祉学科 1年2名 2年1名

・1年生から6年生までと一緒にキャンプに参加することで、子どものいろいろな面がみえて勉強になりました。例えば、4年生は6年生など上級生といるときは甘えるけど、下級生が途中から参加したとたん、上級生の大人の顔になっていくのは、大変興味深かったです。(学生Aさん)

・みんなが協力して活動する時に、1~2人、一緒に出来ない子がいて、どうすればいいのかわかりませんでした。また、小学生の体力は底知らずだとあらためて思いました。最後に子どもたちが私達の似顔絵を描いてくれて嬉しかったです。

(学生Bさん)



先生方との事前打ち合わせの様子



古処山キャンプ村



野外活動

## プレ・インターンシップ体験報告

活動先:高齢者に関する施設(ホームホスピス) 体験:利用者の支援補助 所在地:久留米市

日程:23年8月9日~12日(3日間 夜勤含む)

体験者:看護学科 1年2名

・在宅ホスピスで利用者の方が人生の最期を自分らしく、意義ある生活を送るための生活の支援やサポートを行う介護や看護の活動を体験しました。看護師、介護士の方々のそばで見学するということが主だったので、直接、利用者の方々と接する時、コミュニケーションの取り方に若干戸惑いました。重い病気を抱えているということを意識し過ぎて、利用者の方に気を遣わせてしまいました。その重い病気の方が、洗濯物をたたみながら「これが私の毎日の仕事なんです。」と笑顔で語られていたのが印象に残っています。病気を抱えていると、つい出来ることにも手を出してしまいがちで、負担にならない程度に本人の役割を介護者が奪ってしまわないようにすることが、日々の生活での生きがいや喜びを感じる事につながっていく、ということを今回の活動で実感することが出来ました。(学生Aさん)

・施設での対応に大変感謝しています。病を抱えた高齢者にとって、どんな環境で過ごすことが良いのか、という視点で活動に参加しました。「普通の家」に近い環境での生活が、穏やかに過ごすための条件の1つになるのではないかと感じました。(学生Bさん)



たんがくの家

## プレ・インターンシップ体験報告

活動先: 行政(田川市青少年育成連絡協議会) 体験: 0歳児託児支援 所在地: 田川市

日程: 23年8月~10月(1日)

体験者: 人間形成学科 1年2名、2年19名、4年5名、社会福祉学科 2年4名

・赤ちゃん言葉が理解できなかったのが難しいと思いました。また乳児を預かる際は短い時間でも、授乳や排泄を確認しておかなければならないことを学びました。(学生Aさん)

・眠そうにしているけどなかなか寝つけずにいる子どもがいて、ずっと抱いたままでいた為、姿勢を保つのが大変でした。(学生Bさん)



・0歳児が母親と離れ、泣いた時のあやし方が難しかったです。また同じ0歳児でも、月齢による子どもの成長の違いや子どもは飽きっぽく、新しい遊びをしないといけないことを学びました。(学生Cさん)

・赤ちゃんの気持ちを、その表情から読み取る事が難しいと思いました。また、母親と子どものつながりの深さを学びました。(学生Dさん)

・子どもの中で、なかなか泣き止まない子や、泣き出してしまった子を泣き止ませるのが難しかったです。一定のリズムであやしたり、鼻うたを歌ってあげると泣き止んだり、寝たりするのが分かりました。

(学生Eさん)

・どうやったら、赤ちゃんが喜んでくれるか、子どもに対して、どういう関わり方をしたら良いか、年齢による遊び方の違いなどを学びました。(学生Fさん)

・多くの子どもが母親から離れるとき泣き出してしまい、あやすのが難しかったです。また、2時間ぐらい子どもを抱いていると、腕が痛くなりました。子どもをあやすために、その子が喜ぶおもちゃを見つけてあげるのも難しかったです。突然泣き出したとき、おむつなのか、ミルクなのかと察するのは難しかったけど、おむつかえの仕方などを教えてくれる方がいたので、勉強になりました。(学生Gさん)



・お母さんのすごさ、大変さを実感しました。1歳未満の子どもとふれあうことはなかなかないので、保育士さんに何度も助けていただきましたが、オムツの替え方、ミルクのあげ方を学べてよかったです。赤ちゃんがすごい声で泣いて、お母さんが来たら泣き止むことがしばしばありました。実際の保育者等だったらどうするのか、と思いました。

また、授業で学んだ“つま先立ち”の意味がわかりました。

(学生Hさん)

・やっぱり体力勝負だなと思いました。初めての託児ボランティアで経験者の人たちがいてくれたので、自分にとってためになることがたくさんあって、いろんな年齢の子どもたちとふれあう、いい経験が出来たと思います。一人の子にこだわるのではなく、もっと幅広く、いろんな子に目を向け、注意をはかれるようになりたいです。保育士さんとも、もう少しコミュニケーションをとって、いいところを真似できるようにしたいと思いました。(学生Iさん)

## プレ・インターンシップ体験報告

活動先: 日本二分脊椎症北九州支部.....体験: オータムキャンプ運営補助.....所在地: 田川市

日程: 23年10月8日~9日 (1泊2日)

体験者: 看護学科 3名

・今回は、二分脊椎症の合宿ボランティアに参加させていただきました。看護の授業で習ってはいたのですが、実際にあって対応するのは初めてで、緊張しました。でも、親御さんから丁寧に説明をうけ、1人ひとりの子どもの特徴、介助が必要なこと、注意することを聞き、実践することが出来ました。また、他大学の学生も参加していたので、他の大学の雰囲気や知識の差を痛感し、刺激を受けることが出来ました。今回は、排泄、食事介助、お風呂の介助等、なかなか体験できない事をこのキャンプで出来て、確実に自分の力になったと思います。そして、このような機会を大切に、たくさんの経験をしていきたいと思います。

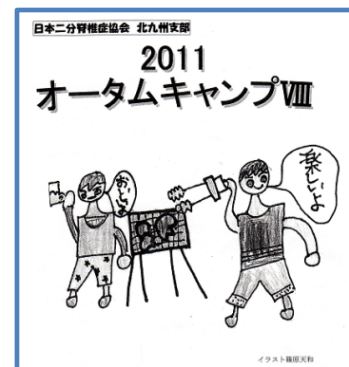
(看護学科 2年)

・日本二分脊椎症協会北九州支部主催の“2011 オータムキャンプ”に参加させていただきました。私は、昨年に続き2回目の参加でした。今年は、源じいの森(田川郡赤村)で1泊2日で行われました。

このキャンプでは、子どもさんやその親御さんと複数の学生ボランティアが組み合わせとなって2日間を過ごします。1対1ではないので、初めてでも安心して参加することが出来ます。子どもさんやご家族と楽しい時間を過ごしたことで、昨年一緒に過ごした学生との再会や今年一緒に過ごした学生達との語り合ったことなどが思い出されます。

終了時に、会のお世話をされているお母さんがおっしゃいました。「最初キャンプを始める時は、子ども達がボランティアの学生さんと過ごしている時に親が子ども達と離れて過ごす時間をつくるという意味合いもありました。でも、毎年参加するうちに、子ども達が介助などを家族以外の人に自分から頼めるようになっていき、外に出かけていくことが出来るようになりました。その“子どもの成長”を見るのが出来るのがうれしい」と。心に残る言葉です。

(看護学科 2年)



源じいの森にて

## プレ・インターンシップ体験報告

活動先:日本二分脊椎症北九州支部.....体験:オータムキャンプ運営補助.....所在地:田川市

日程:23年10月8日~9日(1泊2日)

体験者:3名

二分脊椎症の子どもとその兄弟児とバーベキューやレクリエーション、外での遊びを通して、とても楽しい交流をすることが出来ました。子どもたちは、明るく、元気いっぱい、一緒に時間を過ごすことでとても仲良くなれます。また、それだけでなく、私にとってこのキャンプは、「二分脊椎症」について学ぶ機会となりました。担当者によっては、移動の援助だけでなく、トイレやお風呂の援助もさせていただけます。二分脊椎症の子どもを持つ両親、家族は、援助に体力がいるため、身体的負担があると共に、自分に責任を感じておられ、多くの人に「二分脊椎症」について知識をもってほしいと願っておられると感じました。障がい者と聞くと、暗いイメージを持つ人がおられると思いますが、実際、子どもは明るく、生き生きとして、夢を持ち、自分の病や障害と向き合っていて、このキャンプに参加するとそれぞれ何か感じることもあると思います。私は、まず知ることから始まると思います。

(看護学科 1年)

